

ダルクの活動と 立ち直り支援における地域の連携

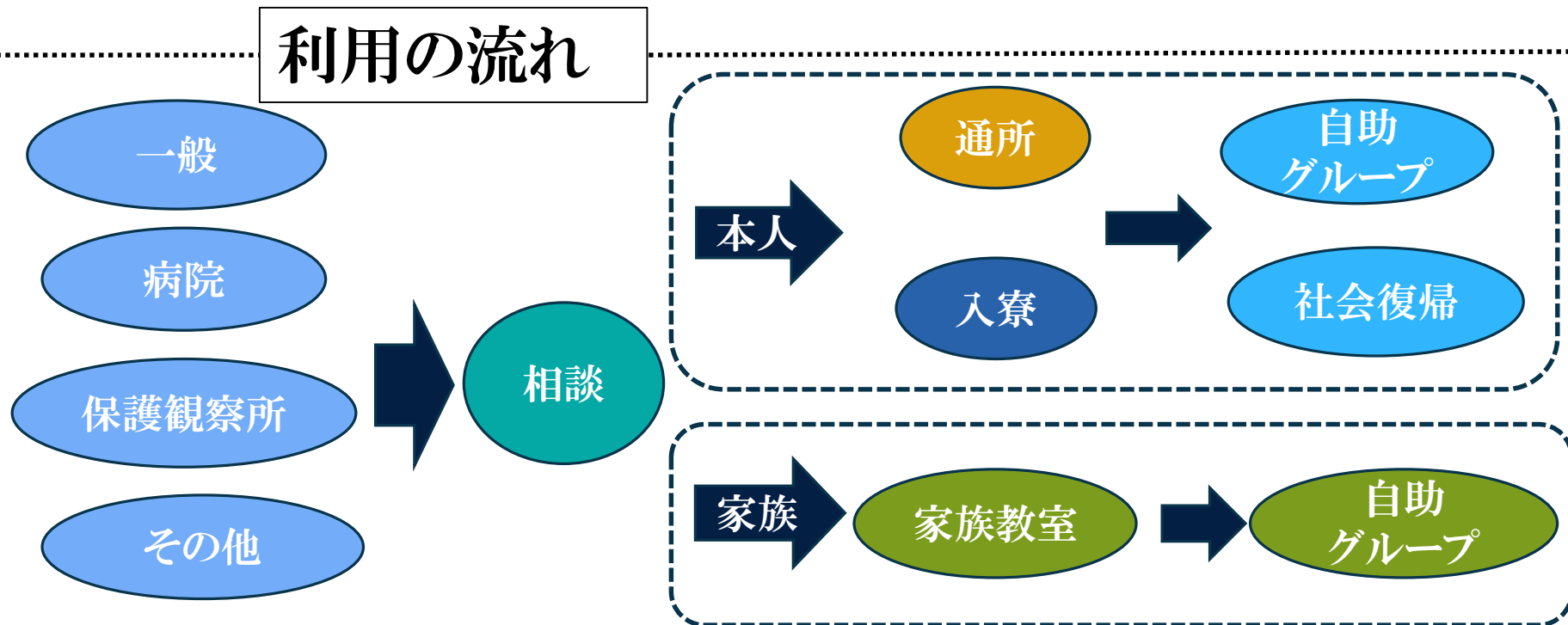
特定非営利活動法人
岐阜ダルク
遠山香

2004年 岐阜ダルク設立

2008年 NPO法人設立

2019年 障害福祉サービス事業
生活訓練開始

2023年 障害福祉サービス事業
就労継続支援B型設立



依存症の種類

20名の利用者のうち

男性12名

女性8名

・覚せい剤	7名	2名
・アルコール	2名	2名
・精神安定剤・睡眠薬	1名	2名
・その他の依存		
危険ドラッグ	1名	
ガス		1名
市販薬		
ギャンブル	1名	1名
摂食障害		
窃盗		

施設の運営

障害福祉サービス

- ・生活訓練(自立訓練)
- ・就労継続支援B型
- ・入寮
- ・通所



男性ハウス・アンダンテ(岐阜市)



男性ハウス・オラシオン(岐阜市)



生活訓練・ステップハウス(岐阜市)



女性ハウス・ハンナ(岐阜市)



女性ハウス・ノア(各務原市)



就労継続支援B型・そらまめ(各務原市)

アウトリーチ

- 薬物乱用防止
- 薬物依存離脱指導
- 集団プログラム



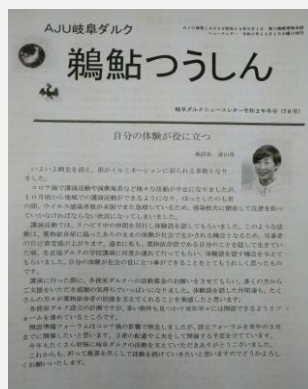
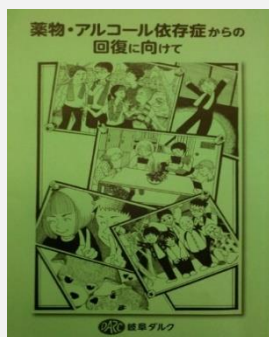
2005年～
刑務所にて薬物離脱指導



小・中・高・大 学校講演

広報活動

- ・ホームページ(<https://gifudarc.com>)
(インスタグラム・YouTubeなど)
- ・ニュースレター・冊子作製・配布
- ・地域での活動紹介
- ・フォーラム開催



相談支援

●薬物電話相談

第1～土曜日 10:00～12:00 13:00～15:00

第2水曜日

●来所相談随時

家族支援

●岐阜ダルク家族会 STEPS

岐阜少年鑑別所相談室

第2・第4日曜日

午後14:00～16:00



岐阜ダルクのプログラム内容

基本のプログラム

- ・ミーティング(グループセラピー)
- ・運動プログラム
- ・自助グループへの参加(AA・NA・GA・OA等)



ミーティングプログラム

過去どうで今どうか、そしてこれからどうなりたいのかを正直に話していきます。仲間の話を聞くことで、共感し自分の問題に気づき、認める。

運動プログラム

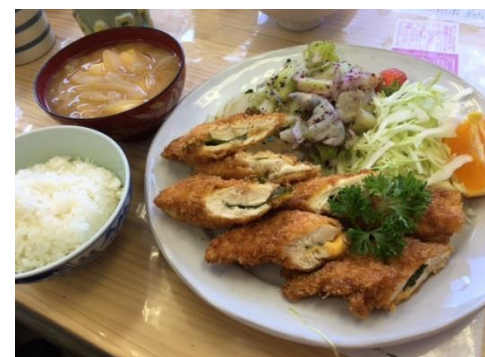
薬物でボロボロになった身体を運動することで、健康な身体へと回復させていきます。健康な精神は健康な体からというように運動に取り組むことで健康な精神も取り戻していきます。睡眠薬がないと眠れなかった仲間も日中、体を動かすことで薬がなくてもよく眠れるようになります。

自助グループ（12ステッププログラム）

がんや糖尿病を患った人が病気を治す為に治療を続けていくように、薬物依存という病気も治療を続けていくことが必要です。ミーティングに繋がりが続けることがその治療方法のひとつです。自助グループに繋がりが続ける習慣を身につけるため、ダルクでは、毎日自助グループのミーティングに参加をしています。

料理プログラム

毎週1回、管理栄養士の先生により、調理や盛り付けなど、健康的でおいしく食べられる調理を指導していただく



ヨーガプログラム 月2回

心と身体と能力を向上させる効果が目的
マインドフルネスの「心を今この瞬間に引き戻す訓練」によっ
て、ストレス源への注意を断ち切る力が向上し、また自分と
相手の気持ちを感じ取る力が向上する



陶芸プログラム

毎月1回指導を受け製作し、バザーやフリーマーケットで販売します。

指先を使って粘土をこねる陶芸は、創造力・集中力を高めながらリラクゼーション効果が得られます。



- オリジナルのシナリオによる演劇
- 演出、演技指導をしていただき
フォーラム、社明運動大会など
6公演
- 新しい啓発手段



合唱

自己中心的に生きてきた仲間たちが、心をひとつにして歌うことを練習します。合唱を通して協調性を身につけます。



レクリエーション

毎週少しずつお金を貯めて、係を決めて話し合い、季節に合わせたレクリエーションを楽しみます。



農作業



無農薬の野菜作り

自然の本来持っている作物を育てる力
に委ね、その土地に合った自然との共生
を図ります。



チャレンジ



高卒認定試験合格



スピーカー



フルマラソン完走！

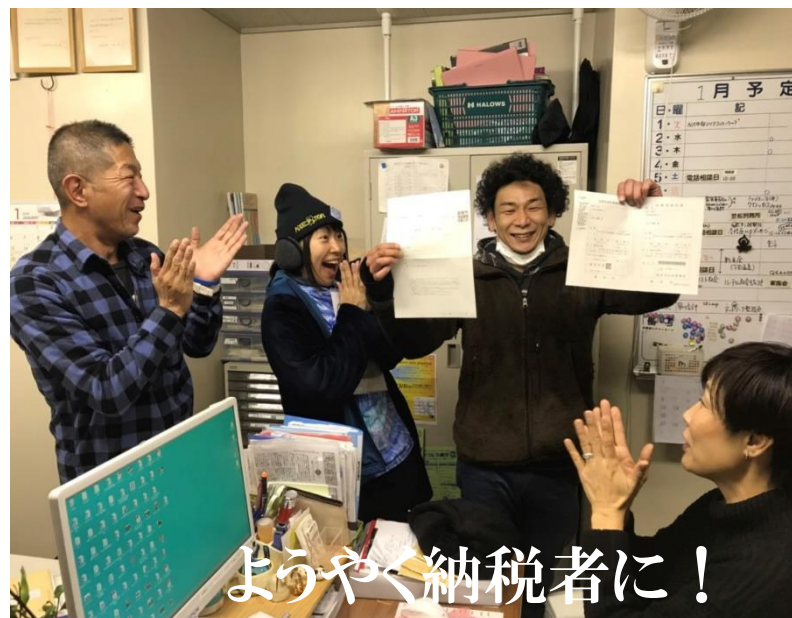


登山

就労プログラム

パソコンや販売など就労の練習になる機会を作ります。

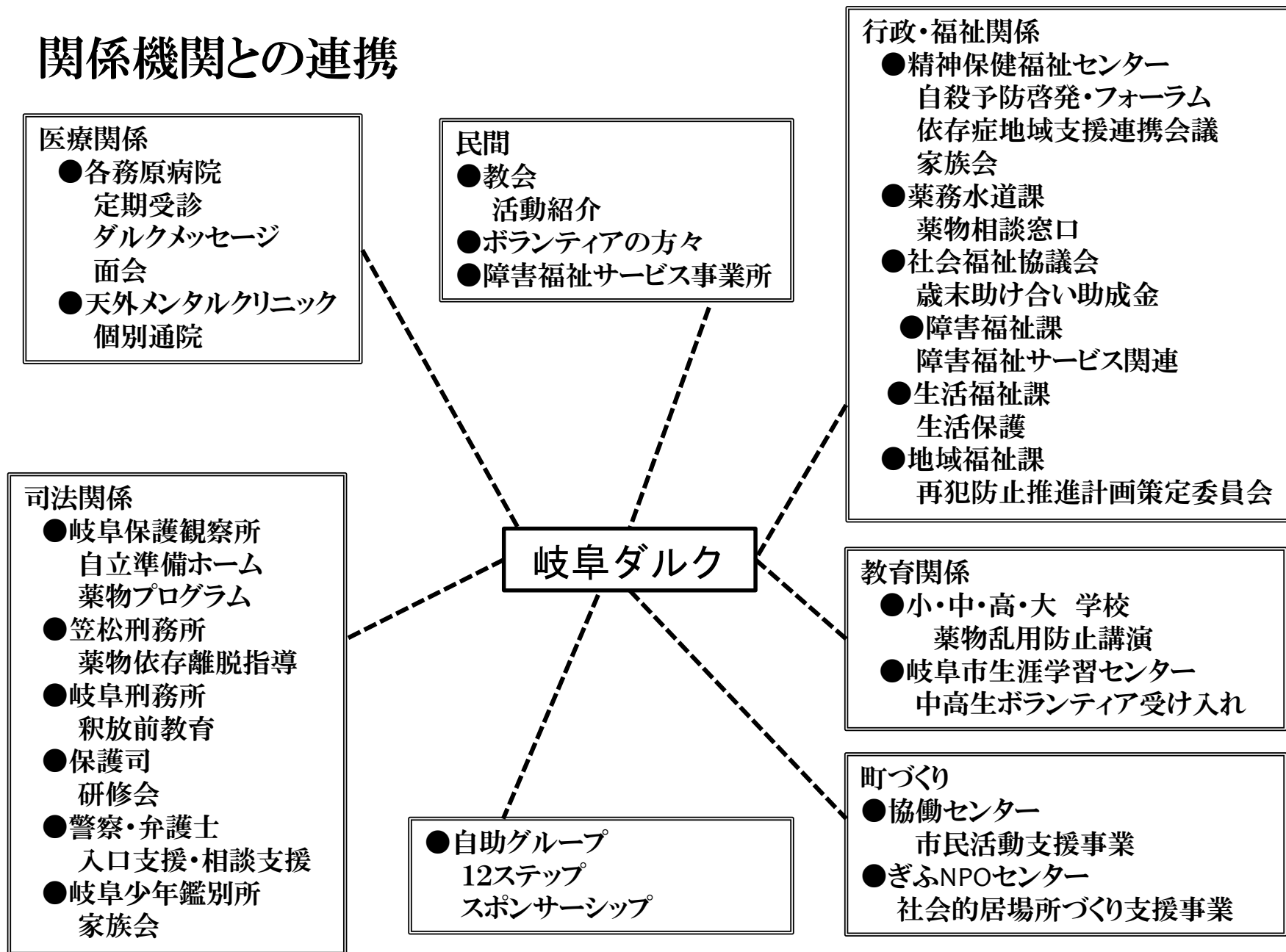
1年～3年のリハビリが経過した後、今までやったことがない仕事に就くことを提案し、仕事探し、履歴書の書き方、面接の練習などを行い自信をつけます。



自然農法による野菜を使った弁当作り



関係機関との連携



地域で暮らす多くの人たちとの連携により 利用者の全人格的な回復を支援

知らないことで噂やイメージを持ってしまうことを減らすために協働の機会を持ち、スティグマを減らす

連携を行う上で大切なこと
それぞれの機関が出来ることが何なのかを知る

出来ることを継続していくことと、機会を共有することにつながりを強めていく（お互いの顔が見える関係）

依存症という病気

- 依存症という病気の理解

本人・家族・雇用主・生活保護ケースワーカーなど・・・

- 回復の過程において再使用してしまうことが少なくないが、回復のひとつの過程ととらえて支援を継続すること

- ひとりの力で断薬を継続するのは難しい。仲間が必要。

告知!!

GiFU DARC 20th フォーラム



令和7年3月22日(土)

岐阜清流文化プラザ長良川ホール

〒502-0841 岐阜県岐阜市学園町3丁目42-42



**「仲間の体験談」
「演劇」など**

是非皆様!!予定を空けておいでくださーい♪

詳細決まり次第追ってお知らせ致します。